

平成30年度事業報告

社会福祉法人 嬉 泉

1. 事業概況

(1) 法人全体

本年度の事業数は全25事業であり、円滑に運営がなされた。また、職員数は常勤321人、非常勤121人、総勢442人となった(平成31年3月31日現在)。これは、もはや中小企業とは言えない規模の組織体であり、そのためここ数年来、運営体制の合理化に向けた管理システムの拡充と、職員の資質の向上を目指して研修体制の充実を図ってきたところである。特に人事制度の中核であるキャリアパス・システムの再構築は、前年度からの継続課題であり、執行本部内に設置したプロジェクト・チーム「キャリアパス策定検討委員会」の活動によって、法人としての人材育成ツールである「キャリアパス・フレーム」、「育成アセスメント票」、「育成研修シート」を完成させ、次年度の本格運用に向けた試行を行うことができた。

また本年度は、第32回自閉症実践療育セミナーを開催し、法人内の事業所での2事例の発表を通して、受容的交流の立場に立った支援における「人間性重視」の重要性を検証・確認した。更にそれを年度末の職員全体研修の場で発表し、法人全体で共有する機会を持つことが出来た。

職員採用においては、総体として求職者数の減少が見られたことと、同時に離職者数も全体として大きく増えてはいないものの、在職年数の少ない職員の離職が増加傾向にあったことから、人材の確保及び定着が課題として残った。その中で特筆すべきは、近年取り組んできた次世代育成プロジェクトが、産休・育休取得率の向上や育休復帰者の増加という成果を得、それが更に平成30年度の東京都女性活躍推進大賞優秀賞の受賞という形で社会的に評価されたことである。

大きな施設整備としては、前年度に計画した袖ヶ浦ひかりの学園の生活棟増改築及び地域支援棟新築事業の着工が平成30年10月に行われた。当初は5月着工の予定であったが、10月着工となった。竣工は、次年度の5月を予定している。

(2) 各事業拠点

1) 「子どもの生活研究所」の療育部門は、めばえ学園、おおらか学園、東京都発達障害者支援センター、さらに保育所(すこやか園・宇奈根なごやか園)などの事業所の実質的な運営を有機的に連携させた「クローバーシステム」を基盤として、子どもの生活研究所こぐま学園、特定相談支援事業所との関係も含めて法人内の他の事業との協力体制を図りながら、事業運営を行った。社会福祉法人嬉泉の基幹となる療育・保育の実践学習の場として、受容的交流理論の継承・発展

に取り組み、職員の質的向上務めると共に、法人の職員研修の場としての位置づけを更に強化し、且つ積極的に人事交流を展開した。また、社会福祉法人の責務として、世田谷区の世田谷区社会福祉協議会が設置する「社会福祉法人地域公益活動協議会」に参画し、地域における公益的な取り組みを実施し、世田谷区内で児童発達支援センター事業や相談支援事業などを通して中心的に関わった。また、保育部門拠点と連携・協力し運営を行った。

相談支援事業所は、めばえ学園、おおらか学園、赤塚福祉園の利用者の利用計画を作成し、サービス利用を援助するとともに他事業所利用の区民のサービス利用の援助等を行った。こぐま学園は自主運営の通所療育機関として、法人独自の事業としての特質を生かし、利用者との信頼関係に根ざした一貫性のある支援の継続に努めた。めばえ学園は、新たに東京都発達障害者支援センターが受託したペアレントメンター派遣事業等を活用した。運営面においては、定員を30名から20名に変更し安定した事業運営を目指したが、結果利用実績の増加に繋げることが出来ず、支援体制の見直しも検討する等課題が残った。おおらか学園は、本人を含めた家庭状況の変化と多様な支援ニーズに対応するため、世田谷区及び他事業者等、関係諸機関との連携をより一層強化して支援に努めた。来年度は、分室分の定員を減らして定員20名の運営にする予定である。東京都発達障害者支援センタートスカは、相談支援と区市町村の発達障害者支援体制整備に向けてのバックアップの二つの柱で運営した。昨年度より後者の比重が高まっているが本年もその傾向を引き続けている。東京都発達障害者支援者育成事業、東京都ペアレントメンター養成・派遣事業を受託し企画・運営を行った。

2) 「子どもの生活研究所」保育部門は、毎月拠点場長・園長・副園長による法人保育部門会議を開催することで、情報交換・共有を行い、管理運営面での強化を図ることができた。また、利用者に提示する重要事項説明書の見直し、災害対策ガイドライン策定に向けての作業等を行い、各園の現状を確認し合うと共に、より有用なものになるよう努めた。保育部門管理者により職員の階層別研修を企画した。所属する保育事業所を越えて職員が交流を図り、学びの機会となった。また、主任保育士については自主的に企画を促し、自園での取り組みについて情報交換・共有を行う中で、日常業務の見直しを図ることができた。

保育内容に関しては、「子どもが主体性を持って、自発的・意欲的に友達や保育者と関わることを進めると共に、相互の信頼関係を土台として、様々な体験を積み重ね学び合う」という受容的交流理論に基づいた保育を行った。特に子どもの主体性を尊重し、乳児期の子どもには保育者や保護者との愛着関係を基盤とし、一人一人の発達過程や心身の状態に応じた適切な援助及び環境を整えた。3歳児以上の幼児には、法人内保育事業所の子どもと行事を通しての交流の機会を持ち、仲間関係を広げ、社会性の発達を促すと共に、5領域の教育的取り組みを設定し、それに対応する関わりを行った。保護者支援においては、送迎時の対応・相談や助言・連絡や通信、会合や行事など様々な機会を活用して行った。また、配慮や支援を必要とする家庭においては、法人・各関係機関との連絡・連携を密に行い、その家庭にとって有益となるよう支援に努めた。地域に開かれた保育所として、地域の親子への支援を目指し、すこやか園では『すこやか広場』との交流を多く持った。また、すこやか園分園キリンに隣接する笹原小学校との交流や、世田谷区教育委員会による就学前施設と小学校との連携事業であるスタートアップカリキュラム策定委員

会に参画し、小学校との連携の強化を図った。宇奈根なごやか園・鎌田のびやか園では、近隣の老人施設との交流を行うと共に、学校との関係を持つ等の世代間交流を行った。鎌田のびやか園では、すこやか園分園クジラの閉園に向けて、受け入れ枠拡大のための定員変更を行った。

3) 「嬉泉福祉交流センター袖ケ浦」は、前年度は離職者が少なかったが、本年度は増加してしまった。離職する原因の一つに、利用者の24時間の生活をすべて抱えていくという入所施設ならではの状況の負担や多岐にわたる業務量の多さもあると考えられる。それは如何ともし難いことではあるが、今後はキャリアパス制度を活用した人材育成を通して、業務遂行の困難さをやりがいに転化していけるような取組をしていく必要がある。袖ケ浦ひかりの学園増改築事業は、「入所者のQ.O.L.向上」「高齢化対応」「地域支援の拡充」という3つのコンセプトの下で、完全個室化及びバリアフリー化された「生活棟の増築」、医務、厨房、整理室の拡張による居住サービス強化としての「既存スペースの改修」、生活介護（通所利用対応部分）及び短期入所希望者の増加に応じて専用スペースを設ける「地域支援棟の新築」の3工事業業としての実施が決まり、10月から工事が開始された。袖ケ浦のびろ学園は設立40周年の年であったが、拠点として上記の大きな施設整備事業の実施があったため、記念事業はペンディングとなった。

袖ケ浦のびろ学園は、年度内の新入園児は、9名（措置0名、契約9名）であった。家庭や学校と連携を取り、学校生活への適応や家庭帰宅の調整を個別に行い、学園だけではない本人の社会生活を維持する中での入所施設支援体制をとった。袖ケ浦ひかりの学園は、一昨年度より、施設建物の増改築に向けて検討委員会を実施し、保護者との意見交換会や職員を交えての検討を重ねた結果、平成30年10月に着工することが出来た。地域生活支援センターたのしみは、袖ケ浦市指定による「特定相談支援事業」「障害児相談支援事業」及び、千葉県指定による「一般相談支援事業」の指定を受けて事業を行った。また、袖ケ浦市から袖ケ浦市社会福祉施設等連絡協議会が受託した市の障害者相談支援事業に相談員を派遣し、地域の障害児（者）への支援を行った。袖ケ浦市福祉作業所うぐいす園は、本人の状況、家庭の状況の把握をしていくこと、それと同時に利用者との関係作りに重きを置き支援を行った。また、個別での家庭との面談を支援計画策定時に年間3回設定し、支援の内容や方法への理解が深まるような機会を持った。その積み重ねもあってか、保護者には当法人の療育方針に対してのある一定の理解は得られたと思われる。

4) 「板橋区立赤塚福祉園」は、福祉園全体では、責任者クラスの職員による運営会を組織し、福祉園全体として、一体的な運営に努めた。また、デイセンターきららの自主制作品とワークセンターはばたきのラスク等の共通ブランド「ATB」については、板橋区内外のイベント等への積極的な参加を通じて、ブランド力の向上及び販売活動の強化を図った。

デイセンターきらら（生活介護事業）においては、日々の連絡帳とサービス提供記録を合わせた様式を用いることで、家庭との相互理解を深めることができた。あわせて、区立福祉園平準化基準の範囲内ではあるが、「在園時間の延長」を行い、従来からの「延長サービス」とともに家庭支援の一助となった。ワークセンターはばたき（就労継続支援B型事業）においては、作業種が多岐にわたったことで、利用者の選択の幅が増え、利用者の強みを生かした作業展開ができた。赤塚ホーム（緊急保護事業）については、近年、介護者の高齢化に伴う急な入院、家庭内の問題

等により、長期利用を要する利用が増加しており、板橋区との調整を要するケースが増えている。板橋区との関係については、施設整備として、隣地の住宅建設に際し、開発業者の要望により、隣地境界擁壁設置工事を実施した他、板橋区により開設以来の懸案であった屋上防水工事が一部実施されたが、漏水は継続しているため、引き続き対応を協議していく。地域との関係においては、地域のオープンスペース「赤ニコ広場」を活用した展示販売活動や「音を楽しもう」「地域総合防災訓練」をはじめとした地域行事への積極的な参加を通じて、より密接な交流を進めることができた。また、福祉園祭りの開催にあたっては、篠ヶ谷戸町会に加え、地域のNPO法人等の協力を得ることができた。さらに、これらの活動の延長として、新たに、地域包括ケアシステム「板橋区版AIP」の支えあい会議下赤塚に会議体の構成員として参画した。板橋区社会福祉法人施設等連絡会の活動については、地域公益活動としてのフードドライブへの協力、「福祉のしごと2019相談・面接会」への参加など、積極的に参加した。

5) 清瀬市子どもの発達支援・交流センターは、「地域と連携・交流しながら地域にこらす親子をささえる」を基本理念として、法人が長年にわたり培ってきた実績に基づく理念「受容的交流理論」や、現スーパービジョン体制の下に心身の発達に遅れやかたよりのある子ども、さらに社会生活上何らかの問題を持つ子どもの相談・訓練指導を通して成長・発達を援助し、地域での育ちを支えることを目的とし運営を行った。

また、対象となる本人や家族だけではなく、その方を取り巻く関係者への支援をする等、地域の支援力の向上に努めると共に、相談・療育・支援の場の提供だけではなく、地域療育の拠点となることを目指し、地域活動にも積極的に参加をしながら連携に努めた。

6) 「大田区立こども発達センターわかばの家」は、心身の発達に遅れや偏り、またその疑いのある就学前の乳幼児に対し、基本的な自立の育成と集団生活への適応を高めることを目的とし、早期に必要な支援を行う施設として、区の定める運営方針に基づき「乳幼児の支援」「保護者との連携・支援」「関係機関との連携」「地域と触れ合う施設づくり」を行った。支援においては、本法人が長年培ってきた『受容的交流』の立場から「人間性重視の支援」を基本方針とし、「相談支援事業」「地域支援事業」「早期支援事業」と「指定相談支援事業所」の運営を行った。年々相談者数、利用希望者数が増加し続け、新規利用者の受け入れや個別的支援の提供ができにくい状況に対して、「グループでのフォローアップ」や「グループでの学習会・相談会」を複数実施する等、引き続き、必要な支援を少しでも効率的に提供できるような工夫に努めた。また、初回面接(インテーク)までの待機が長期化していることが、前年度からの問題となっており、今年度、可能な範囲で初回面接の実施数を増やした。それによって、多少の改善は見られたものの、基本的な解決には至らず、最優先課題として、次年度に引き継ぐこととなった。そのような状況において、区の所管課との協議を重ねてきた中で、今後の方向性が明らかになり、次年度からわかばの家の事業の配分や利用の仕方を一部変更することとなった。わかばの家は、区立施設の役割として「相談の枠組みでの支援と地域支援を充実させていく」「療育の体制は大田区全体で考える」という方向で、基本的に「わかばの家の療育と民間療育機関の併用は不可」となった。年度の後半に、今後の方向性と次年度からの変更点について、区と一緒に保護者への説明会を開催し、併

せて関係機関(保育園、幼稚園、児童発達支援事業所、行政機関等)へ説明・周知した。

2. 法人本部

(1) 法人運営

1) 理事会・評議員会関係

① 理事会並びに評議員会の開催状況

ア 理事会

回	開催日	出席数	議事内容
1	30.4.24	決議省略	袖ヶ浦ひかりの学園施設整備計画に係る設計業者の選定
2	30.5.29	4/6	平成29年度事業報告、平成29年度決算報告、定款の変更、諸規程の整備、袖ヶ浦ひかりの学園施設整備計画に係る一般競争入札参加条件、袖ヶ浦ひかりの学園施設整備計画に係る工事予定価額及び最低制限価額の設定、平成30年度定時評議員会の開催、評議員候補者の推薦、評議員選任・解任委員会の開催
3	30.7.30	決議省略	袖ヶ浦ひかりの学園施設整備計画に係る施工業者の選定
4	30.9.21	5/6	平成30年度資金収支補正予算、内部管理体制の基本方針
5	30.12.26	6/6	平成30年度資金収支補正予算、就業規則の一部改正
6	31.3.26	6/6	平成30年度資金収支補正予算、2019年度事業計画、2019年度資金収支予算、設備資金の借入、定款変更、設備資金の借入に伴う基本財産担保提供承認申請、諸規程の整備、施設長人事、評議員会の開催

イ 評議員会

回	開催日	出席数	議事内容
定時	30.6.15	5/7	平成29年度事業報告、平成29年度決算報告、定款の変更

② 監事による監査

ア 監査実施日

- ・会計監査…平成30年5月17日(木)
- ・事業監査…平成30年5月18日(金)

イ 実施場所

- ・会計監査 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦
- ・事業監査 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

ウ 監査内容

平成29年度における理事の業務執行状況及び法人の財産状況

エ 監査結果

事業実施報告、決算書、決算附属明細表ならびに財産目録は適正

③評議員選任・解任委員会

- ア 開催日 平成30年6月15日(金)
- イ 開催場所 法人本部 (子どもの生活研究所)
- ウ 内容 評議員の退任に伴う選任について
- イ 委員

選出区分	氏名	職業等
監事	大森 行雄	大森行雄税理士事務所 税理士
事務局員	亀谷 一雄	本部事務局長
外部委員	矢島 卓郎	目白大学人間学部人間福祉学科 教授・学部長
外部委員	古屋 龍太	日本社会事業大学専門職大学院 福祉マネジメント研究科 研究科長

2) 法人の事務処理体制

① 経理関係

	会計責任者	出納職員	契約担当者	現金保管責任者
職・氏名	常務理事 石井 啓	事務局長 亀谷一雄	理事長 須藤祐司	事務局長 亀谷一雄
発令月日	H26. 6. 20	H9. 4. 1		

② 公印等管理

	代表者印管理	法人印管理
職・氏名	常務理事 石井 啓	常務理事 山崎順子

3) 資金関係

① 寄付金

寄付者	目的	金額
一般寄付者他	運営費(本部)	6,196,640
一般寄付者他	運営費(施設)	530,552
合計		6,727,192

② 地方公共団体補助金

東京都	サービス推進費他	210,693,298
世田谷区	運営費他	377,969,436
千葉県	サービス推進費割愛分他	25,901,820
千葉市	サービス推進費割愛分	1,717,000
袖ヶ浦市	相談支援事業委託料他	5,048,820
板橋区	委託料	419,553,000
清瀬市	〃	83,225,000
大田区	〃	325,621,469
狛江市	運営費	4,777,366
木更津市	巡回相談料	297,850

合 計	1,454,805,059
-----	---------------

4) 実施事業一覧

※平成31年3月31日現在

事業拠点	事業所	施設種別	施設長氏名	定員	職員数
子どもの生活研究所 【療育】	めばえ学園	障害児通所支援（児童発達支援センター）*2	樋口美津子	20	10
	おおらか学園	障害福祉サービス事業（生活介護）*2	沼倉 実	23	16
	子どもの生活研究所（相談部・こぐま学園）	児童の福祉増進につき相談に応じる事業		—	1
	東京都発達障害者支援センター（トスカ）	公益事業	山崎 順子	—	8
子どもの生活研究所 【保育】	すこやか園（ゾウ、クワ、キリン）	認可保育所*2	稲垣 修	96	42
	宇奈根なごやか園（カモシカ）	認可保育所*2	佐瀬美穂	80	33
	鎌田のびやか園（ライオン、シロクマ）	認可保育所*2	坂田 朗	97	28
	すこやか広場	地域子育て支援拠点事業	稲垣 修	—	—
嬉泉福祉交流センター 袖ヶ浦	袖ヶ浦のびろ学園	福祉型障害児入所施設 *1	柳 淳一	50	34
	短期入所 袖ヶ浦のびろ学園	障害福祉サービス事業（短期入所）	柳 淳一		
	袖ヶ浦ひかりの学園	障害者支援施設 *1	石井 啓	53	51
	短期入所 袖ヶ浦ひかりの学園	障害福祉サービス事業（短期入所）	石井 啓		
	地域生活支援センター たのしみ	相談支援事業、障害児通所支援*2	柳 淳一	—	10
	日中一時支援 たのしみ	日中一時支援事業	柳 淳一		
	グループホーム 春のひかり	障害福祉サービス事業（共同生活援助）*2	石井 啓	4	1
	袖ヶ浦市福祉作業所 うぐいす園	障害福祉サービス事業（生活介護）*2	石井 啓	12	4
障害福祉サービス事業（就労継続支援B型）*2		30			
板橋区立赤塚福祉園	ディセンター	障害福祉サー	小池 朗	60	32

	きらら	ビス事業（生活介護） *2			
	ワークセンター はばたき	障害福祉サービス事業（就労継続支援B型） *2	小池 朗	40	10
	赤塚ホーム	板橋区緊急保護事業	小池 朗	8	10
清瀬市子どもの発達支援交流センター （とことこ）		公益事業	岩澤寿美子	—	9
大田区立こども発達センターわかばの家		公益事業	大岩香代子	—	46

注) 事業の種類 *1：第一種社会福祉事業

*2：第二種社会福祉事業

職員数：常勤職員

5) 施設整備

①嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

- ・袖ヶ浦ひかりの学園施設整備事業

総費用 595,685,760円

(借入金300,000,000円 自己負担295,685,760円)

※2019年6月竣工予定

(2) 経営管理室

1) 職員採用

① 2019年度に向けた新規職員採用の概要

ア 新卒者については、経団連の就職協定である3月広報活動解禁、6月選考活動解禁、10月内定解禁が継続され、この枠組みを外す形でインターンシップの名のもとに実質的会社説明会が早期に実施されている。学生の就職活動開始も一般的に早期化の傾向にあり、これに対応するため本年度もマイナビ2019を稼働させ、早期新卒の囲い込みを実施した。

一方、従来からの福祉系学生（保育士養成校を含む）の就職活動は、秋以降が本流となっておりこの動向にも合わせた採用活動を実施した。

昨年度は3月から説明会を開催したが、福祉関係で実質動いている学生は少ないことも確認できたので、本年は5月から説明会を実施した。結果は以下のとおりである。

		応募	内定	辞退	新規採用	期中採用	新卒	既卒
第1回	5月26日	20	5	2	3		3	0
第2回	7月8日	9	5	2	3		2	1

第3回	9月29日	14	4	0	4		3	1
第4回	11月17日	16	5	0	5		3	2
第5回	12月15日	15	4	1	3		2	1
個別	子研	66	13	3	10	8	0	10
個別	袖ヶ浦	21	0	0	0	5		
計	新規採用	161	36	8	28		13	15
計	期中採用					13(註)		13
合計		161	36	8	41		13	28

(註) ・本年は説明会、第1次面接を袖ヶ浦にて積極的に実施した。

他に、木更津ハローワークとの共催で、木更津ハローワークにて嬉泉ミニ採用面接会も実施した。新規採用、期中採用のいずれもターゲットとしたが、結果は期中採用者5名を採用することができた。

・個別に子研で実施した採用説明に新規と合わせて期中採用の応募もあり期中採用8名を採用することができた。

イ 新卒者の就職活動は、12月をもってほぼ収束した。既卒者についてはほぼ通常の採用活動となったが、12月以降3月に集中する傾向に変動はなかった。

ウ 对学校関係に関しては、昨年同様採用活動強化校を選択し、日ごろからの関係の強化、求職情報のきめ細かな発信を行った。本年度の特徴としては、今まで実績のなかった学校からの照会が増加し、採用につながったことが特記できる。

エ ハローワークとは、引き続き良好な関係が維持できており、ハローワーク側で嬉泉を応募者に推薦するケースも継続している。渋谷ハローワークハートフルコーナー(福祉関係専門)に加え、若者ハローワークからの紹介も相次いだ。木更津ハローワークとは一層関係が強化され嬉泉の業務内容と理念に共感してくれている職員が候補者を選抜して推薦してくれている。

オ 応募者の求職活動の多様化傾向は続いており、東社協が運営する「福祉のお仕事」サイト、世田谷区が運営する「世田谷保育ワーク」サイト、心理職募集サイトからの応募は採用実績につながった。千葉県社協が運営する「福祉の仕事」サイト、日本的障害者福祉協会求人ポータルからの応募もあったが採用にはつながらなかった。求人ソース内訳は以下のとおりである。

求人ソース	採用数	詳細
ハローワーク	9	渋谷 1 若者 0 (応募3) ハートフル 1 木更津 3 他 4 (成増、府中、蒲田、新百合ヶ丘)
就職フェア	4	福祉のお仕事フェア 3

		世田谷区保育士相談会 0 HW 共催ツアー面接会 0 木更津 HW 共催ミニ面接会 1 板橋区就職フェア 0
WEB	1 1	福祉のお仕事（東京都社協） 3 世田谷保育ワーク 1 求人 BOX 0 知的障害者福祉協会ポータルサイト 0 嬉泉HP 5 心理HP 2
有料媒体	5	マイナビ 2 タウンワーク 2 紹介派遣 1
縁故	1 2	法人職員紹介 3 学校紹介 2 和洋女子大学 東洋大学 実習 4 すこやかインターンシップ めばえ のびろ ひかりの 非常勤より職変 3
計	4 1	

カ 内定者確保のための施策

(1) 1月15日に、袖ヶ浦に内定者を集め懇談会を実施した。内定者間の関係が深まり法人職員としての意識付けが高まった有効な企画であった。

(2) 内定者に対して、夏休み、通年を含め、アルバイトのオファーを行い、6名の内定者が参画した。

② 常勤職員採用結果

		支援員	保育士	相談員	厨房	事務等	医務	計
男女別	男	7	1	1	1	1	0	11
	女	12	6	2	6	1	3	30
新既別	既卒	10	3	3	7	2	3	28
	新卒	9	4		0	0	0	13
学歴別	院卒	0	1	2	0	0	0	3
	大卒	14	4	1	0	1	0	20
	他	5	2	0	7	1	3	18
	計	19	7	3	7	2	3	41

③ 職員数の推移

平成26年4月1日から平成31年4月1日間の職員数の推移は下表の通りである。

	常勤職員	非常勤職員	派遣社員	計
平成26年4月1日	335	141	2	478
平成27年4月1日	360	156	2	518
平成28年4月1日	367	160	1	528
平成29年4月1日	343	136	2	481
平成30年4月1日	352	137	5	494
平成31年4月1日	349	131	3	483

※嘱託契約（医師等）を除く

2) 次世代育成プロジェクト

①活動概要

- ア 本年度新たに育児休業を取得したものは8名であった。
内3名は、2回目の取得であった。
育児休業からの復帰予定者20名の内、18名が復帰した。退職の内1名は家族の転勤に伴うもの、他の1名は希望の保育園に入園できないためでの退職となった。
- イ 育児休業からの復帰者については復帰前に面談を行い、円滑な復帰に繋がるよう法人としてサポートした。
- ウ 給与支給日の定時退社の徹底を全事業所で実施した。
労働時間管理、休暇管理についても事業所長が率先して働きやすい職場にすべく努めた。
- エ 産休、育休取得者へ出産祝い金制度が円滑に導入された。
- オ 採用活動での告知を強化
平成30年3月26日第2期くるみん認定を受け、新しいくるみん認定マークの求人票への掲載（募集要項、ハローワーク求人票）、採用説明会で応募者への説明を実施した。



②育児休業取得実績

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
子研	1	1	5	11	5	5	8	3
セタック	1	1	3	3	3	0	—	—
袖ヶ浦	1	2	3	2	2	2	3	1
赤塚	0	1	2	1	1	1	2	3
清瀬	0	0	0	0	1	0	2	0
大田	—	1	0	3	0	6	4	1
計	3	6	13	21	12	14	19	8

備考				くるみん 認定取得			2期くるみ ん認定得 (2018年 認定)	
----	--	--	--	--------------	--	--	--------------------------------	--

※育児休業開始日の属する年度

③女性活躍推進法への取り組み

ア 平成28年4月1日施行の女性活躍推進法に対応し、平成28年3月31日付にて「一般事業主行動計画」を策定し東京労働局長に届け出し、厚生労働省「女性の活躍・両立支援総合サイト」及び嬉泉HPに「社会福祉法人嬉泉女性活躍行動計画および女性の活躍に関する法人情報」としてその内容を公表している。

イ 平成28年度実績において優良事業主としての実績をクリアしたので認定申請を行った結果、平成30年5月15日、基準適合一般事業主認定（認定段階3—認定マークえるぼしの三ツ星）の通知を受けた。認定段階3はすべての基準が適合するものとの認定であり、東京都内社会福祉法人初の認定であった。



【参考】優良事業主適合基準（以下の全ての基準を上回った）

- (1) 直近3事業年度の男女別採用における競争倍率で女性が下回る
(女性の競争倍率は、x 0.8で比較)
- (2) 直近の事業年度の男女別平均継続勤務年数
(女性の継続勤務年数は、x 0.7で比較)
- (3) 直近の事業年度の時間外労働及び休日労働が月平均4.5時間を下回る
- (4) 直近の事業年度の女性管理職の割合が当該産業平均値（福祉・医療産業平均43.9%）を上回る
- (5) 直近の3事業年度の多様なキャリアコースでの採用実績
 - ・派遣労働者から通常の労働者への雇入れ実績
 - ・30歳以上の女性の通常の労働者としての中途採用実績

ウ 一般事業主行動計画は、策定後3年を経過したので平成31年4月1日有効な新たな3か年行動計画を策定し、厚生労働省ホームページに公開した。

④東京都女性活躍推進大賞優秀賞受賞

ア 次世代育成プロジェクトの取り組み、女性活躍推進の取り組みが認められ、平成31年1月16日東京都女性活躍推進大賞優秀賞を受賞した。

イ 特に、次世代プロジェクトチーム活動にて仕事と子育ての両立に仕組み、働きやすい環境について「相談窓口設置」による運用を行い、「経営トップへの提言」や「職員への啓発活動」を実施したこと、採用活動の質の向上に努めたこと、人材育成に主眼を置いたキャリアパスを全職員が参画して策定したこと、超過勤務及び有給休暇取得実績

の法人内「見える化」を促進し超過勤務の減少及び計画的な有給休暇の取得を推進したことなどが大きく評価された。

ウ 育児休業取得については、育児休業取得者の職場復帰100%達成(2011-2016年)、育児休暇取得者に対するフォローアップの取り組み、安定して働ける制度の導入による多様な働き方の実現、第2子・第3子育児休業取得者増、復職後の昇格実績などが特筆して評価された。

3) キャリアパス策定プロジェクト

①概要

- ・全職員参加して策定した法人キャリアパスフレームを、平成30年3月開催の全体職員研修会で披露したのち、引き続きプロジェクトメンバーが主体となり研修育成にあたるツール作成に移行して策定作業を継続した。

- ・事業所別、職種別、職級別に課題を抽出しながらキャリアパス育成ツールとして完成させた。

- ・育成ツールは、育成アセスメント票と育成研修シートにより構成され、職員育成のツールとして活用できるとともに人事考課の基礎データとしても使用できるよう工夫した。

- ・平成30年度中に育成アセスメントの作成を行い、これを用いて2019年度より本格運用することとした。

②行程

会議等	月日	内容
経営管理室打ち合わせ	4/5	CPモデル策定方法(プロジェクト型)決定 CPモデルアウトライン決定
場長会	4/12	プロジェクト案説明 プロジェクトメンバー選出依頼 承認
プロジェクト会議1	5/31	プロジェクト概要説明 作業依頼・説明
事業所・職種ごと打ち合わせ	6月～	項目『業務内容』の洗い出し作業(原則、全職員参加)
プロジェクト会議2	9/6	項目『業務内容』洗い出し作業進捗報告・修正
経営管理室打ち合わせ	10/25	項目『業務内容』整理 プロジェクト作業項目再検討・決定
プロジェクト会議3	11/15	項目『業務内容』整理結果提示 項目『求められる能力』『求められる姿勢』作成依頼・説明
経営管理室打ち合わせ	12/13 1/17	項目『役割・責任』『研修』『基本給』『昇格要件』を加えたCPモデル検討・決定 説明Q&A集作成
プロジェクト会議4	1/24	CPモデル案・説明Q&A集案提示・説明 質問収集
経営管理室打ち合わせ	2/28	CPモデル案・説明Q&A集完成
場長会	3/6	CPモデル案・説明Q&A集上程 承認
全体職員研修	3/18	CPモデル案・説明Q&A公示・説明

(3) 研究啓発局

1) 法人主催の職員研修

①新任職員フォローアップ研修

日時：平成30年6月23日(土)

場所：嬉泉福祉交流センター〔袖ヶ浦〕

目的・内容

- *支援・仕事をする上で大事に考えていることを伝え、理解を深める。
- *職員相互の交流を深める。

参加職員：49名（平成30年度新規職員29名と中途採用職員2名。

場長・園長10名、研修係とスタッフ8名。）

事前にアンケートを取り、新人職員の現状や問題点を把握するように努め、活動のグルーピングを行った。入職後数か月を経ていることで、法人内の他事業所の情報交換や、状況や気持ちの共有など、交流を図れたようだった。

講義も、日々の自分自身の実践を振り返りながら、受容的交流の理解に少しつなげることが出来た。また経験を積んでいる職員も、現在、受容的交流についての話を聴く機会がないので、各事業所から聴講者を積極的に選出するなど検討の余地はある。

②療育合宿研修

ア．夏季療育合宿

日時：平成30年8月18日(土)～20日(月)

場所：嬉泉福祉交流センター〔袖ヶ浦〕

目的・内容：

- ・自閉症児・者と生活をともにしながら、『受容的交流』を体験的に学ぶ。特に日常業務において、一定程度経験を積んだ職員の支援能力の向上、グループ等の運営能力の向上に主眼を置く。
- ・日常とは違ったスーパービジョン体制の中で、個々の職員が自分を見直し、研修課題に取り組む。

参加利用者：9名

参加職員：17名（研修対象職員12名、研修係5名）

イ．冬季療育合宿

日時：平成30年12月22日(土)～24日(月)

場所：嬉泉福祉交流センター〔袖ヶ浦〕

目的・内容：

※夏季療育合宿と同

参加利用者：9名

参加職員：14名（研修対象職員9名、研修係5名）

両合宿ともに、年度当初に責任者とグループリーダーが選定されたことで、各自心構えができ、気持ちにゆとりを持って合宿に臨んでいた。その為、研修課題も明確化され、自分の役割に主体的に取り組む姿がみられた。

③全体職員研修

日時：平成31年1月20日(日)

場所：浦安ブライトンホテル東京ベイ

テーマ：『人間性重視の支援を考える』

参加職員：256名(全職員対象)

④新人研修

日時：平成31年3月23日(土)

場所：嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦]

目的・内容：

*嬉泉の職員としての基本となる考え方や価値観を伝える。

*管理職員や先輩職員との交流を図る。

参加職員：53名(2018年度中途採用職員他;11名、2019年度新規採用職員;22名

場長・園長11名、研修係・スタッフ;9名)

⑤事業所間職員交流研修

- ・各拠点における夏祭りや餅つき等の季節行事の際、それぞれ各事業所に職員の研修参加を呼びかけ、随時交流研修を実施した。また各事業所間(療育や保育間)で、各職員の研修目的で事業内容の見学及び現場体験等も実施した。嬉泉職員の交流は、職員のマスが大きくなるにしたがって難しくなっていると感じられる。引き続き行事など、様々な機会を利用してさらに積極的に交流の機会を持ち、嬉泉のアイデンティの確認・強化していくことがのぞまれる。

2) 広報・啓発事業

①自閉症実践療育セミナー

第32回自閉症実践セミナーの開催

日時：平成30年9月22日 10時～16時30分

場所：損保会館(御茶ノ水)

後援：一般社団法人日本自閉症協会・一般社団法人全日本自閉症支援者協会

参加費：5,000円

内容：テーマ 「人間性重視の自閉症支援を考える」

基調講演 「自閉症支援に求められる支援者の心構えとは」

講師 渡邊慶一郎氏(東京大学学生相談ネットワーク本部精神保健支援室/
コミュニケーション・サポートルーム室長)

事例から考える 「自閉症の内的世界を理解する」

「自閉症にかかわる支援者のあり方」

法人支援員2名より事例提供とコメンテーターよりの検討等

コーディネーター 山崎順子(嬉泉)

コメンテーター 渡邊慶一郎氏

玉井邦夫氏(大正大学心理社会学部臨床心理学科教授)

本庄一聖氏(社会福祉法人武蔵野)

参加者数： 外部受講者 96名 法人内受講者 65名 係 28名

②「嬉泉の新聞」の発行

「嬉泉の新聞」では、福祉関係有識者や法人理事等の関係者による巻頭言、法人内トピックスの紹介、運営・財務にかかわる情報等、法人に関わる各種情報の公開等を行なっている。本年度からの新しい試みとして「嬉泉職員によるリレーエッセイ」の掲載を開始した。年2回の定期発行とし、作成した新聞は、法人関係者、協力者、関係諸機関・団体等に無料配布している。また、嬉泉をより理解いただくために、嬉泉バザーや嬉泉祭りバザーで広報コーナーに置いたり、職員採用説明会等で配布をしている。

●発行状況：第78号（10月発行）／ 第79号（3月発行）

●発行部数：第78号 2,500部 ／ 第79号 2,500部

●内容：

<第78号>

- ・巻頭言「改正発達障害支援法と全自者協の社会的役割」
一般社団法人全日本自閉症支援者協会 会長 松上利男 氏
- ・「本部事務局 苦情解決委員会からの報告」
- ・「嬉泉職員によるリレーエッセイ① ～去年村」
- ・第40回嬉泉祭りバザー報告
- ・平成30年度バザー開催のお知らせ
- ・「袖ヶ浦増改築について（中間報告）」
袖ヶ浦ひかりの学園増改築工事事業にご寄附を頂いた方一覧
- ・「平成29年度社会福祉法人嬉泉 事業報告／決算報告」

<第79号>

- ・「『社会福祉法人嬉泉』の平成31年度の基本方針」
社会福祉法人 嬉泉常務理事 石井啓
- ・「職員によるリレーエッセイ② ～のびろ工務店」
- ・第32回自閉症実践療育セミナー報告
- ・第54回嬉泉バザー報告
- ・東京都 女性活躍推進大賞 優秀賞受賞の報告
- ・社会福祉法人嬉泉 事業所紹介

③ インターネット・ホームページ管理

「嬉泉新聞」とともに、本法人にかかわる各種情報の公開を目的として、よりアップ・トゥ・デートな情報を発信するために、平成29年度にホームページリニューアルを行い、適宜有効に活用している。本年度は、嬉泉新聞1号（1985年5月発行）から79号（2019年3月発行）までのアーカイブを作成し、閲覧可能とした。

ホームページの主な掲載内容

- ・インフォメーション（嬉泉バザー開催のお知らせ他）
- ・嬉泉について
- ・嬉泉事業所案内
- ・法人公開情報（運営財務に関する公開情報他）
- ・採用情報

- ・アトリエ・アウトスについて
 - ・嬉泉新聞アーカイブ
- ④ 法人パンフレット・事業所パンフレット
- 法人の総括的パンフレットは本年度7月に1,000部増刷した。各事業所がそれぞれに作成した事業拠点ごとの事業所パンフレットとともに、本部及び各事業所において活用している。次年度は大幅な改訂を予定している。
- ⑤ アトリエAUTOSの活動内容
- 作品展開催
- ア アンシエヌ藍（社会福祉法人藍 就労B事業所レストラン 三軒茶屋）コラボレーション企画展 アトリエ・アウトス展 作家個展
- ・期間；市川浩志展：平成30年6月25日～7月12日
 - 持田想一展：平成30年10月9日～10月26日
 - 浜ノ園武生展：平成31年2月4日～2月28日
- ・場所；三軒茶屋 レストラン・アンシエヌ藍
 - ・企画；社会福祉法人藍
- イ アトリエ・アウトス展～自閉症その内的世界の表出XⅢ～ 主催
- ・期間；平成30年6月13日～6月19日
 - ・場所；玉川高島屋S・C南館6階ホワイトモール
 - ・企画；東神開発株式会社 ・後援；世田谷区
- ウ アトリエ・アウトス展 主催
- ・期間；平成30年11月6日～11月11日
 - ・場所；世田谷美術館区民ギャラリーB
 - ・後援；世田谷区
- その他
- ア クリアファイル、ポストカードをバザーと世田谷美術館で販売する。
- イ インスタグラムのページを開設。IDは、「atelierautos」
- ウ 2019年カレンダー（ポストカード仕様）制作販売および配布（1000セット作製）
- エ 長野県諏訪のギャラリーカフェ・シーズより依頼があり、展示用作品の貸し出しをする。
- オ 優希合同会社（新宿）より依頼があり、カレンダー作製の絵画データの貸し出しを行う。

（4）本部事務局

1）管理職研修

より良い労働環境の構築に資することを目的として、管理職研修を実施した。

- ・期日 平成 31 年 2 月 5 日 (火)
- ・場所 子どもの生活研究所
- ・参加者 14 名
- ・内容 「職場のハラスメント～働きやすい職場環境に向けて～」
- ・講師 スプリング法律事務所 弁護士出縄正人氏、弁護士石井林太郎氏

2) 事務職員研修

事務職員の資質向上を目的として、業務用アプリケーション「福祉の森」操作教育研修を実施した。

①財務会計システムについて

- ・期日 平成 30 年 11 月 19 日(月)
- ・場所 日立システムズ会議室
- ・参加職員 10 名

②給付費請求システムについて

- ・期日 平成 30 年 11 月 20 日 (火)
- ・場所 日立システムズ会議室
- ・参加職員 9 名

③人事管理システム・給与計算システム

- ・期日 平成 30 年 11 月 22 日 (木)
- ・場所 日立システムズ会議室
- ・参加職員 9 名

3) 福利厚生

① 新人職員歓迎会

・目的・内容：辞令交付式と同日に開催。新任職員を歓迎し、先任職員との交流を行った。

- ・期日：平成 30 年 4 月 2 日 (月)
- ・場所：子どもの生活研究所

② 旅行予約サイト『じゃらんコーポレートサービス』を活用し、職員の有給休暇の計画的な取得促進を図った。

4) バザーの開催

① 第 54 回嬉泉バザー

- ア 期日；平成 30 年 11 月 11 日 (日)
- イ 場所；子どもの生活研究所
- ウ 会計報告 (単位；円)

係	純益
献品	285,900
産直・委託	127,838
子どもコーナー	7,750
食堂	307,380

アウトス他	28,750
後援会	12,001
総務	289,932
合計	1,059,551

② 第41回嬉泉祭りバザー

- ア 期日；平成31年3月3日（日）
イ 場所；嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦
ウ 会計報告（単位；円）

係	純益
献品	395,943
手芸	149,420
子どもコーナー	49,500
食堂	285,990
広報	133,978
総務	941,860
合計	1,956,691

5) 運営改善・人権擁護等

① 苦情解決

ア 苦情解決実績

平成30年度中の苦情申出件数 0件

イ 苦情解決第三者委員

事業所	氏名	性別	推薦区分	職業等
世田谷	小沼肇	男	関係団体	日本社会事業大学客員教授
	安藤真洋	男	関係団体	社会福祉法人武蔵野理事長
	金子恵美	女	関係団体	日本社会事業大学教授
袖ヶ浦	請井征力	男	関係団体	社会福祉法人佑啓会市原市福祉会館館長
	宮本秀樹	男	関係団体	常磐大学コミュニティ振興学部准教授
	小島直子	女	地域代表	袖ヶ浦市民生委員・児童委員
赤塚	関谷公二	男	地域代表	泉福寺住職（元篠ヶ谷戸町会長）
大田	瀧下史代	女	地域代表	入新井地区民生委員
	岡崎照幸	男	地域代表	馬込地区民生委員
	守安富美子	女	地域代表	田園調布地区民生委員
清瀬	池永和子	女	地域代表	清瀬市民生児童委員協議会会長

② 第三者評価事業の受審

下記施設・事業において、東京都認証機関による第三者評価事業を受審した。

- ア 保育所すこやか園
- イ 保育所宇奈根なごやか園
- ウ 保育所鎌田のびやか園
- エ 福祉型障害児入所施設袖ヶ浦のびろ学園
- オ 障害者支援施設袖ヶ浦ひかりの学園
- カ 清瀬市子どもの発達支援・交流センター
- キ 大田区立こども発達センターわかばの家

③苦情解決体制要綱の改定、事故防止対策内規及び職員行動規範の策定を通して、職員の運営改善・人権擁護に対する意識向上に努めた。

[役員・評議員名簿]

【役員】

理事長 須藤祐司 (医) 嬉泉会 理事長
常務理事 石井 啓 (福)嬉泉 袖ヶ浦ひかりの学園 園長
山崎順子 (福)嬉泉 東京都発達障害者支援センター センター長
理事 高橋利一 (福)至誠学舎立川 顧問
潮谷義子 元(学)日本社会事業大学 理事長
山根美江子 (福)嬉泉 保育・療育統括アドバイザー
監事 中島健一 (学)愛知学院大学 教授
大森行雄 大森行雄税理士事務所 税理士

*任期： 平成29年度定時評議員会より平成31年度定時評議員会まで

【評議員】

評議員 吉岡則重 (福)東京福祉会 専務理事
安田正貴 元(財)世田谷区保健センター 理事長
渡邊慶一郎 東京大学学生相談ネットワーク本部 准教授
金子尚弘 元(学)白梅学園 白梅学園大学子ども学部 教授
小島直子 袖ヶ浦市社会福祉協議会 副会長
丸山寿晴 (医)嬉泉会 副理事長
田村紀子 一般社団法人親泉会 常務理事

*任期： 平成29年4月1日より平成33年定時評議員会終結時

年間行事等実施報告

平成30年度

項目 月	行		事		職員研修・職員会議等		広報・啓発事業		職員採用		その他	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
4月					18	場長会（子研）						
5月					23	場長会（赤塚）			26	採用説明会	29	監事監査(17, 18) 理事会
6月					15	園長会（子研）					15	評議員会
					13	場長会（袖ヶ浦）					15	評議員選任・解任委員会
					23	フォローアップ研修						
7月	14	赤塚夏祭り	21	子研夏祭り	9	場長会（子研）			8	採用説明会		
	19	袖ヶ浦夏祭り	22	わかば夏祭り								
			28	鎌田夕涼み会								
8月	4	宇奈根夕涼み会			22	場長会（子研）						
					18	夏季合宿研修（～20）						
9月	8	子研秋を楽しむ会			26	場長会（清瀬）			29	採用説明会	21	理事会
10月	14	嬉泉ふれあい祭り			19	場長会（赤塚）						
					19	園長会（赤塚）						
11月	11	嬉泉バザー			28	場長会（子研）			17	採用説明会		
12月					17	場長会（子研）			15	採用説明会	26	理事会
					22	冬季合宿研修（～24）						
1月			7	袖ヶ浦餅つき	17	場長会（子研）						
			10	子研〔保育〕餅つき	20	職員全体研修						
			11	子研餅つき	28	場長会（子研）						
2月					5	場長会（子研）						
					5	園長会（子研）						
					27	場長会（子研）						
3月	3	嬉泉祭りバザー			6	場長会（子研）					26	理事会
					23	新人研修						

